

# 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日 令和5年3月30日

法人名

園名

社会福祉法人 白ゆり会

認定こども園 白ゆりの丘

## まとめ

全体平均

3.94

第2章第2節 乳児期の園児の保育	保育者との基本的な生活面、絵本の読み聞かせ、園外散策、リズム遊びなどの日々の関わり中で児との信頼関係が構築することでの情緒が安定し、積極的に子どもが体を動かし遊ぶことができた。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	保育教諭と信頼感が築くことが出来た子どもは、基本的には生活習慣ができ日々の保育の中で、様々なことに興味をもち活動することができた。発達に課題のある子どもの特性を理解し、個別の支援をいていく必要がある。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	日々のお天気や植物や虫を園外散策等で肌で感じ、意欲的に取り組むことができた。また、年間を通して裸足、夏は裸、冬は薄着が定着し体力が定着してきた。ただ、製作面において、他児の模倣をしがちになっており、保育の見直し等が必要である。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	感染症などの疾病にかかりやすい時期であり、また、アレルギーをもっている子どもも多く看護師、管理栄養士等の専門的な立場から連携をはかることで、子ども一人ひとりに適した対応ができた。
第3章 健康及び安全	看護師・管理栄養士等の専門性を活かし、保育教諭と連携を図ることでより良い保育が提供できるようにする。また、安全管理マニュアルの見直し、避難訓練の実施をしながら地域との連携しながら災害の備えをする。
第4章 子育ての支援	保護者や子どもの環境も多様化しており、個別の対応が必要になるが全ての家庭にできるかは難しい。子育て支援センターでは地域の子育て支援が提供できた。
第5章 職員の資質向上	新型コロナウイルス感染拡大のため全国的に研修が中止になり研修の形態やあり方が変わりつつある。その中でITC事業の導入で年度後半は、少しずつだが研修も再開になったが十分な研修参加にはならなかった。今後はITC所事業にも積極的に取り組み園職員全員が研修が出来る体制に取り組んでいきたい。
総合	コロナ禍3年を向かえ、園の子どもや職員は感染はなかったが地域では、急激な感染があり職員の健康状態が悪くなくても欠席をしなければならないことがあり、少人数体制の職員配置の課題があった。保育・教育の室については、職員の研修については、法人で園内研修を充実することで多方面の分野の研修を職員が受けることができた。また、withコロナ時代の中、子育ての悩みやストレス抱えている親子が多くなったり、発達に課題のある子どもも多くなっており、保護者へ多様な対応が必要であると感じた。そのためには、職員間の子育て支援に対する考えや情報共有も必要で寄り添う（思いやり）体制づくりが不可欠である。

## データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.40
「3歳未満児保育」	32	4.44
「3歳以上児保育」	53	3.81
「教育保育の配慮事項」	16	3.69
「健康・安全」	29	3.83
「子育ての支援」	18	3.78
「職員の資質向上」	9	3.22
計	172	3.94

## データグラフ

